

株式会社HYK

地域の成長にむけ、共創の力を大切にしながら 「環境」「食」「福祉」への取組みを展開



株式会社 HYK

代表取締役
上保木 聡志

従業員数

2名

設立

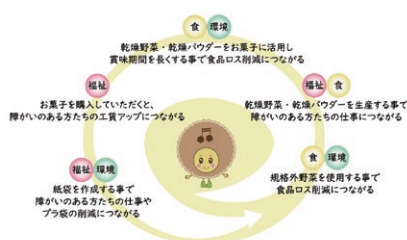
2011年

事業概要

福祉事業(就労支援、菓子・紙袋製造)

震災後、従業員の生活を守るために ビジネスモデルを転換

当社は、「環境」「食」「福祉」への取組みを通じて社会の幸せが繋がり、広がってほしい」という想いのもと、「もったいない、を形に」をスローガンに、事業を展開しています。こうした当社の想いやビジネスモデルを表現したものが「さっぽろール®」です。



現在の事業
の背景には、
2018年の北海道
道胆振東部地
震があります。
震災前は、乾燥

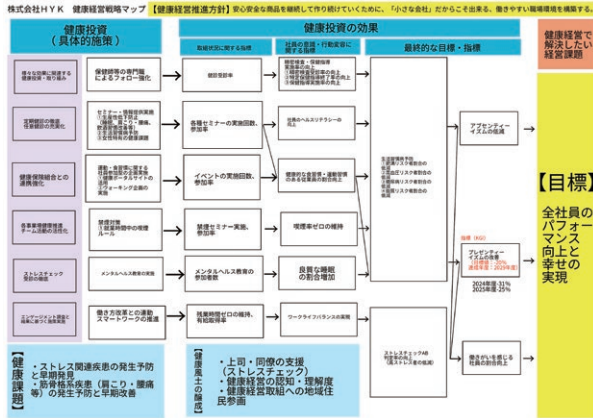
野菜の製造など青果関連の事業を中心に行っていましたが、事業所が被災したことで事業継続が困難な状況に陥りました。借入金返済や運転資金確保に追われる中、強く意識したのが、「従業員や事業所で働く障がいのある方々の生活をいかに守るか」という点です。その中で、事業のあり方を考え直し、サステナビリティ経営の必要性を強く感じるようになりました。結果として震災から1カ月足らずで、「環境」「食」「福祉」を起点とした現在のビジネスモデルへと大きく舵を切ることになります。それは、「明日も笑って暮らすための後悔しないための生存戦略」でした。



自社にできることを考え、 周囲を巻き込みながら誰かの役に立っていく

「会社で働く私たち自身が元気でなければ、周りの人を支えることができない」。その考えから、健康経営に取り組み、「健康経営優良法人」の認定を取得しています。

具体的な取組みとしては、独自の「健康経営戦略マップ」を策定し、1日7時間労働の遵守や有給休暇の100%取得、テレワークの導入のほか、就業時間中のがん検診やボディメンテナンスなどを導入。取組みにあたっては、無理をしすぎず、スモールステップを積み重ね、継続してやり続けることを意識しています。最近では、「自身の健康を気遣い、家族に感謝を伝えるきっかけになれば」との想いから、「バースデー休暇」も導入しました。



「健康経営優良法人」の認定取得にあたっては、「こんな小さな会社が挑んでいいの？」と思い悩んだこともありましたが、「**当社の取組みが、誰かの取組みの後押しにつながるかもしれない**」と考え、取組みを始めました。はじめは認定取得には至らなかったものの、健康経営推進に強みを持つ企業や団体にアドバイスやサポートメニューの提供などをお願いし、それらの企業・団体との「共創の力」により取組みをレベルアップできた結果、念願の「健康経営優良法人(3年連続ブライト500)」のほか、「さっぽろまちづくりスマイル企業(ゴールド)」 「スポーツエールカンパニー2026プラス」などの各種認定を取得できました。



「共創の力」を活かした取組みは、ほかにもあります。当社は地域の子どものためのスポーツ振興の一助となるために、少年サッカー大会へも協賛しています。単に協賛するだけではなく、子どもたちを見守る親御さんが、自身の健康を気遣うきっかけも作りた

いと考え、複数の企業と協働し、サッカー大会に親御さんのための「健康測定ブース」を出展しています。

そのほかにも、消費者トラブル啓発を目的として消費者センターと協働することで、自社製品の包装用紙袋に標語が印字された紙袋を使用するほか、豪雪対策を目的として

土木管理課と協働することで、地域の方に配付する雪のす



べり止め用砂の包装も行いました。このように、様々な企業の事業を通じて誰かのお役に立てることを「共創の力」で形にし、地域の役に立っていきたく思います。

海外展開も視野に入れながら、若者と地域をつなぐ存在に

最近では学生とともに、地域課題解決に貢献できる商品開発・販売を行っています。

こうした若者たちに「ここで働きたい」と思ってもらえるような、魅力的な会社を創っていきたく考えています。そのためにも、魅力的な仕事を生み出さないといけないですし、さらにいうと、地域自体が魅力的であることが、若者に



選ばれる条件だと思っています。今後も「共創の力」により、自社の魅力を向上させるとともに、地域の未来を守るため、魅力的なまちづくりとその先にある雇用創出に貢献していきたいと考えています。

ここがポイント!

- 震災を転機として、従来の事業を活かしながらサステナブルなビジネスモデルへ転換
- 無理をしすぎず、できることから取り組み、共創を通じて取組みを継続・発展させている
- 地域・若者をつなぎながら、自社だけでなく地域の成長を見据えていること